

## 桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

昭和火口では、4月8日以降噴火が多く発生していましたが、6月14日以降噴火回数が減少しています。また、地震及び微動は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も観測されていません。これらのことから、桜島の噴火活動は活発化する傾向にないと判断され、本日（14日）15時に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3から2に引き下げました。今後、南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に大きな噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの火口周辺では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰等に注意して下さい。降雨時には泥石流や土石流に注意が必要です。なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

### ○活動概況

#### ・噴煙活動の状況(図1)

昭和火口では、4月8日から6月13日にかけて爆発的噴火<sup>1)</sup>を含む噴火が断続的に発生しました。6月14日以降は、6月28日と7月10、14日に小規模な噴火が発生しましたが、噴火回数は減少しています。噴火回数は4月13回、5月27回、6月19回でした。

南岳山頂火口では、7月5日に今年3回目の爆発的噴火がありましたが、過去の活動と比べて静穏な状況が続いています。

#### ・地震及び微動の発生状況(図1)

火山性地震及び火山性微動の発生は、6月以降少ない状況が続いています。

#### ・地殻変動の状況(図2, 図3)

GPS連続観測では、山体の膨張を示すような顕著な地殻変動は認められていません。

大隅河川国道事務所が設置した有村観測坑道での傾斜観測では、3月中旬から山頂方向が上昇しているとみられるわずかな変化が続いていましたが、7月頃から山頂方向が下降しているとみられる変化に変わりました。

#### ・昭和火口周辺の状況(図4)

7月10日の観測では、5月7日と比べて火口の形状に特段の変化はありませんでした。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。

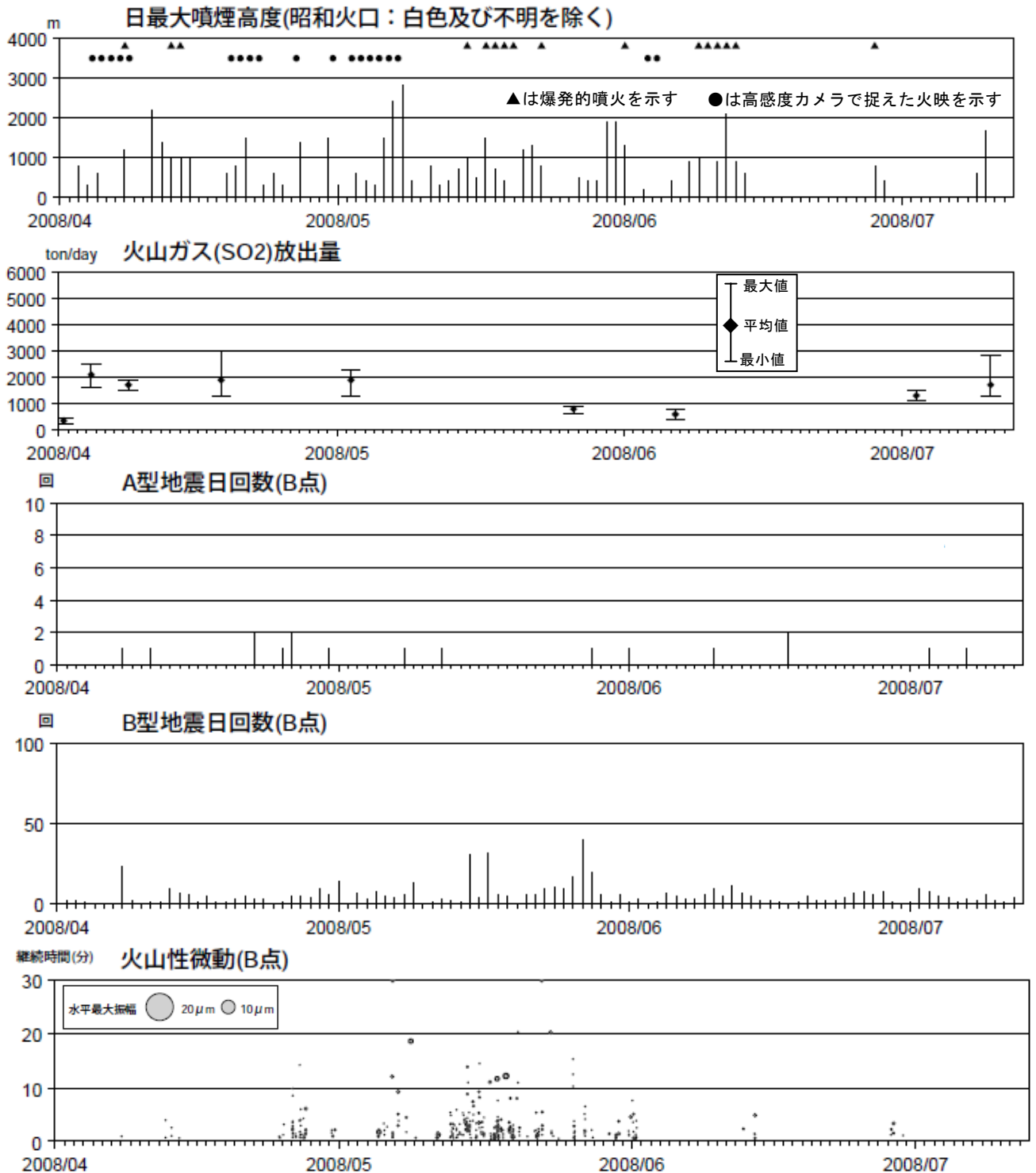


図 1 桜島 昭和火口の活動経過図 (2008 年 4 月 1 日～2008 年 7 月 12 日)

- ・ 4 月 8 日から 6 月 13 日にかけて爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生しました。6 月 14 日以降は、6 月 28 日と 7 月 10、14 日に小規模な噴火が発生しました。噴火回数は 4 月 13 回、5 月 27 回、6 月 19 回でした。
- ・ 火山性地震及び火山性微動の発生は、6 月以降少ない状況が続いています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、7 月 2 日には一日あたり 1,300 トン、同 10 日には 1,700 トンと大きな変化はなく推移しています。

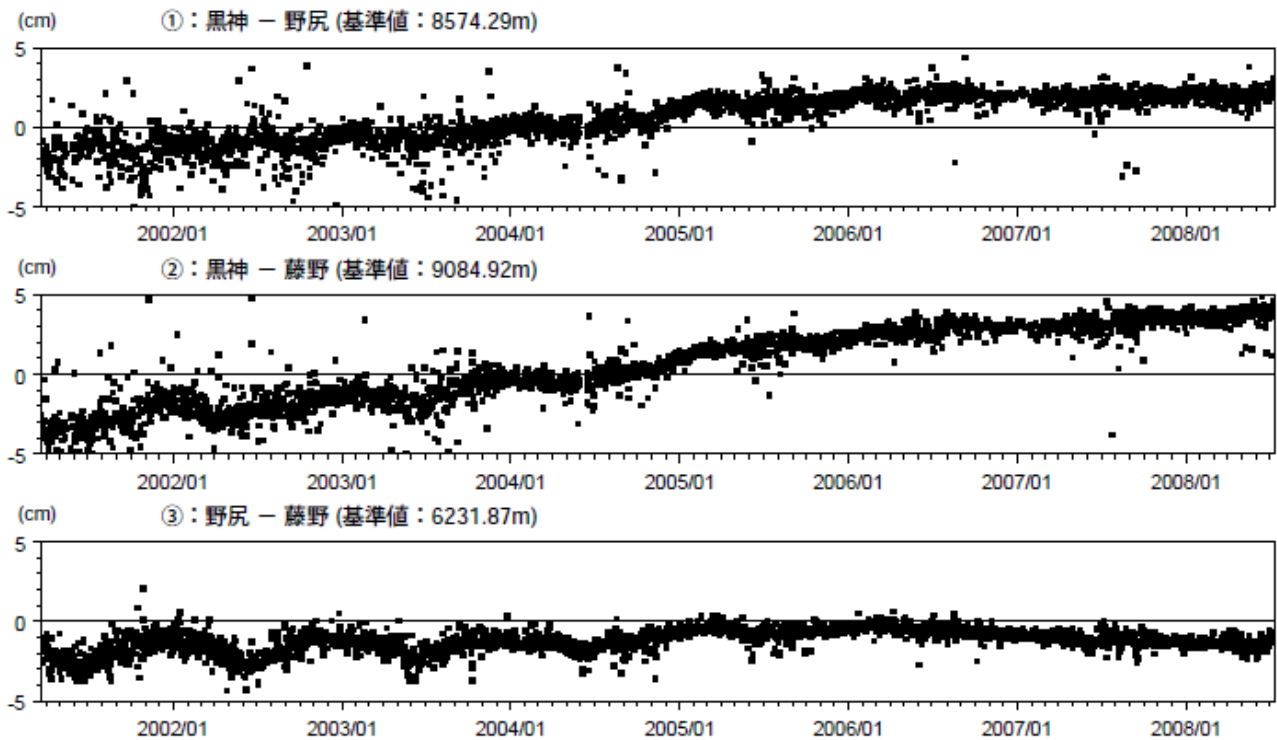


図 2 桜島 GPS 連続観測による長期の基線長変化(2001 年 3 月～2008 年 7 月 12 日)  
GPS 連続観測では、山体の膨張を示すような顕著な地殻変動は認められていません。

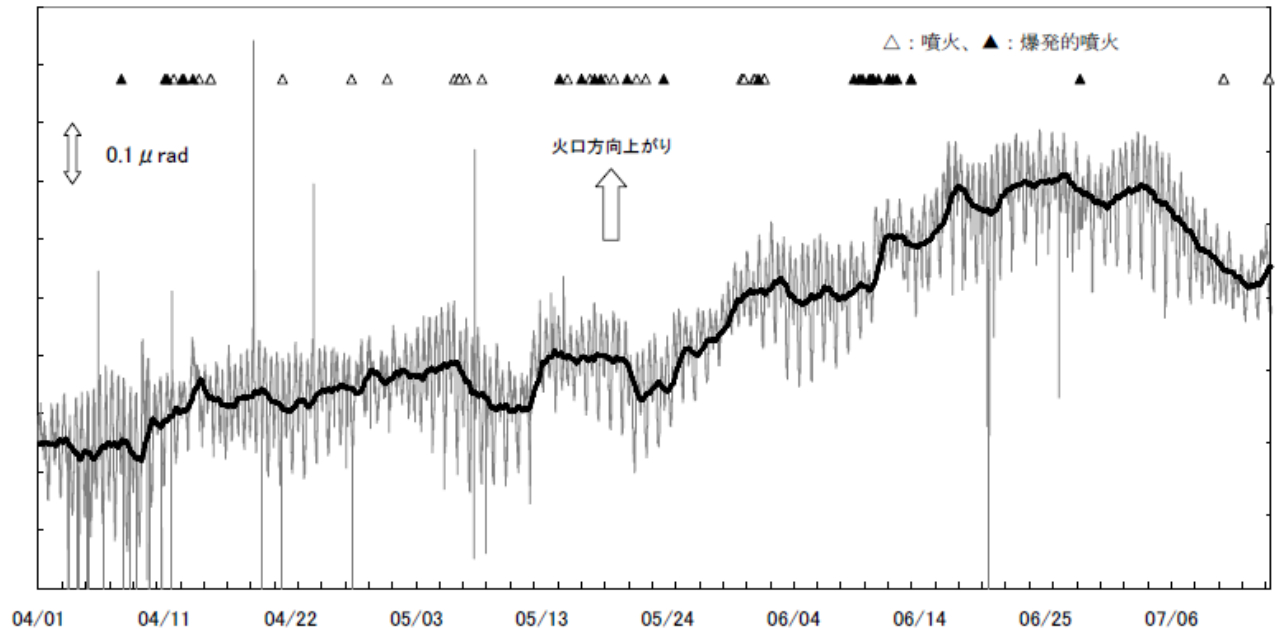


図 3 有村観測坑道の水管傾斜計\*の変化図(2008 年 4 月 1 日～2008 年 7 月 14 日)  
・ 3月中旬から山頂方向が上昇しているとみられるわずかな変化が続いていましたが、7月頃から山頂方向が下降しているとみられる変化に変わりました。  
(細線は、1 時間値を示し、太線は 24 時間平均の値を示す)

\* 大隅河川国道事務所提供



写真 1 5月7日撮影



写真 2 7月10日撮影

図 4 桜島 昭和火口の状況（黒神河原より撮影）

7月10日の観測では、5月7日と比べて火口の形状に特段の変化はありませんでした。

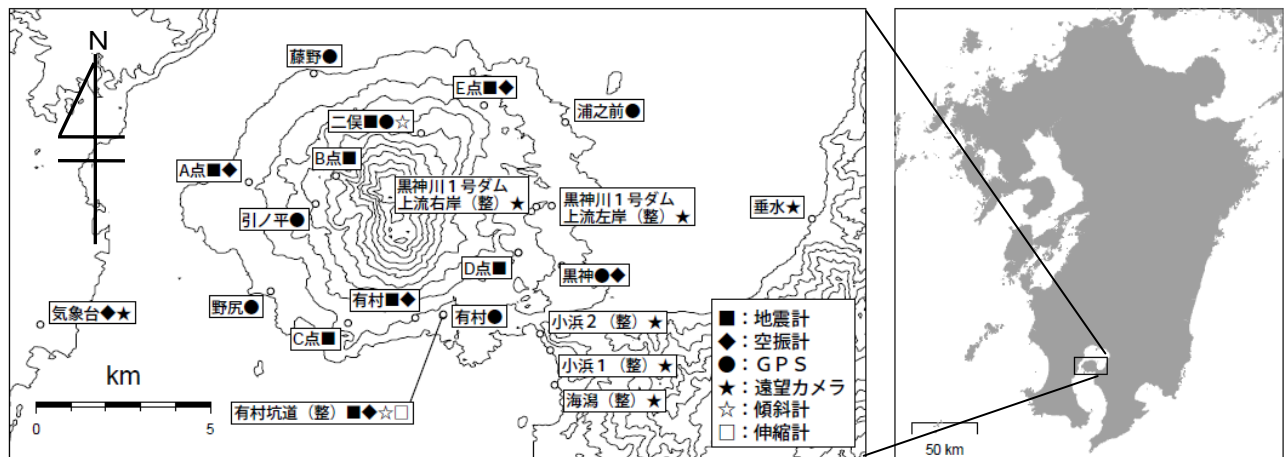


図 5 桜島 観測点配置図